

# 昔の水路（井路川）

【担当】 富増 由起子



■写真①

古市小学校の前は細い道で、道路の右半分に井路川が流れていました。この川は高瀬川と呼ばれていました。

## 井路川の思い出①（福田輝雄）

終戦後の一時期、古市小学校から清水小学校の給食を運んでいました。2人1組でバケツを持って、井路川沿いの細い道をよく歩きました。



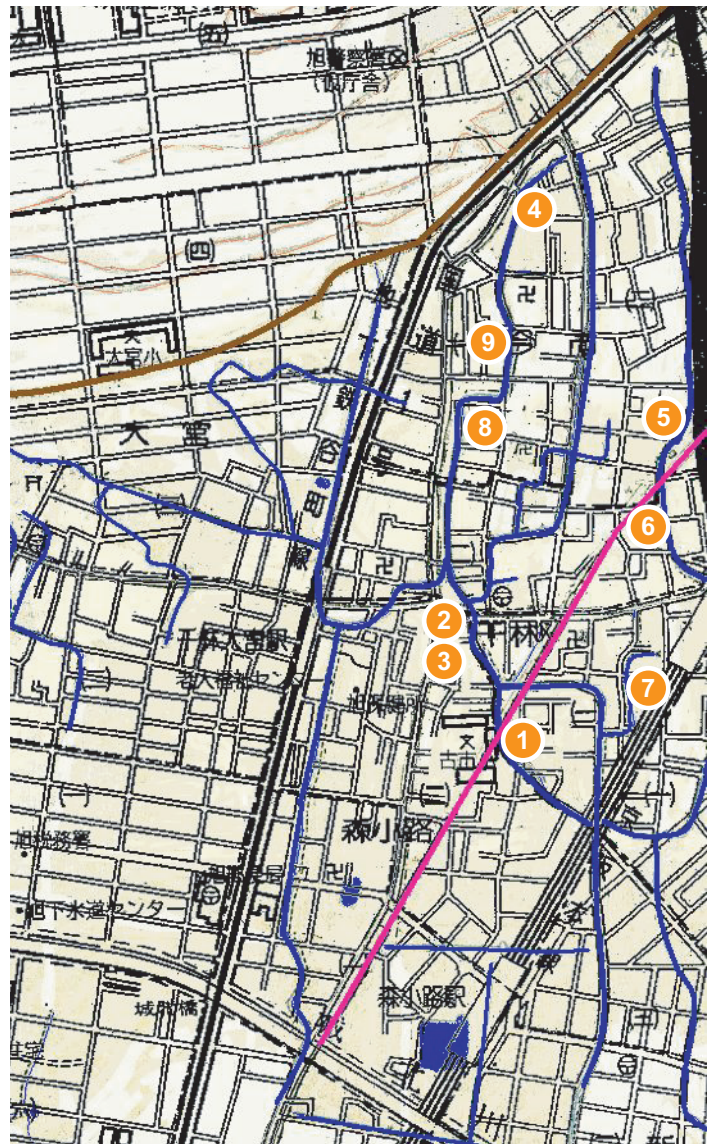
■写真② 朝日地蔵尊の前も井路川でした。



■写真③ 朝日地蔵尊

舟を漕ぐ櫓で突かれたため顔が欠けていると言われていています。歯痛に効き、酒を供える習わしがあります。昔は地藏盆があり、京街道の方に夜店が出ていました。

戦後すぐの頃までこの辺りには、井路川と呼ばれる水路がたくさんありました。井路川は人や物を運ぶ用水路として利用され、中には現在の下水道の代わりとなるものもありました。「三枚板(さんまいた)」といわれる幅3尺、長さ3間の舟(舟底が三枚板になった小舟)が、農具や刈り取った作物を積んで、家と田の間を行き来していました。また、幅・長さとも3尺の小舟を「田舟」と言い、田圃でのレンコン取りなどに使われていました。



■井路川ルート図  
(大正末期頃)

■青色の線: 昔の水路(井路川)  
■茶色の線: 昔の淀川の堤防  
■桃色の線: 昔の京阪電鉄の軌道跡

① 写真撮影位置

(資料: (財)大阪市都市工学情報センター)





■写真④ 高腹の樋の跡(今市交差点付近)  
現在の国道1号より北は淀川でした。この樋より井路川に淀川の水を引き入れていました。



■写真⑤  
曲がりくねった道路は井路川を埋めた名残です。

## 井路川の 思い出② (上田信子)

井路川がうちの裏を流れていた。淀川からの流れだったので、割にきれいな川だった。夏の前頃はホテルが飛んでいて、夜になるとパーッと光ったり消えたりして、もの悲しい風景だった。外の明かりがない頃はものすごい印象だ。川は物を運ぶのに通っていたが、家もまだ少ない頃だし、下の方の百姓たちが田圃の肥料にするのに我々の家の汲み取りによく来ていた。川の水は割にきれいなので、洗濯物もしに来ていた。子供らは小さい魚やらメダカなどを追い回していた。

## 井路川沿いのまちなみ

人や物を運ぶ上で重要な役割を果たした井路川の跡をたどれば、古くからの長屋やお屋敷などを多く見ることが出来ます。



■写真⑥ 九軒長屋(千林2丁目)  
昭和12年に建てられました。この辺りは戦災に遭わなかったので、現在もその姿をとどめています。



■写真⑦  
千林1丁目浄光寺付近には数軒の古い屋敷が残っています。



■写真⑧ 旭区最初の近代工場(今市1丁目)  
この地で明治30年に織布工場が開業され、旭区の近代工業が始まりました。



■写真⑨ 今市会館(今市1丁目)  
昭和24年に建てられた、洋風の飾りがあるレトロな建物です。